

YPP2007

2007 年度ヤングサイコロジストプログラム
(YPP2007) 抄録集

開催日 2007 年 8 月 24 日 (金)

於 とかちプラザ

企画・運営 ヤングサイコロジストプログラム運営委員会

主催 日本パーソナリティ心理学会広報委員会

YPP についてのご案内

企画趣旨

この企画は、若手を中心とし、自分のおこなっている研究についての議論や質問をおこなう場を提供することを目的としています。

新しい研究の反応をみるという使い方をしていただいても結構ですし、これまでに発表した研究をもう少し議論してみたいというものでも結構です。また、完成した研究ではなく、途中段階の研究で、これからおこなう際の実験・調査方法や分析についての質問を出し、それに対するアドバイスをもらうこともできます。「今までおこなってきた研究テーマについて、若干別な領域からの視点でアプローチしてみたい。しかし、どうもよくわからない部分がある。周りにはその領域について詳しい人がいない・・・」といった方にもお勧めです。イメージとしては、学内でおこなわれているゼミを全国版に広げたようなものといえるかもしれません。

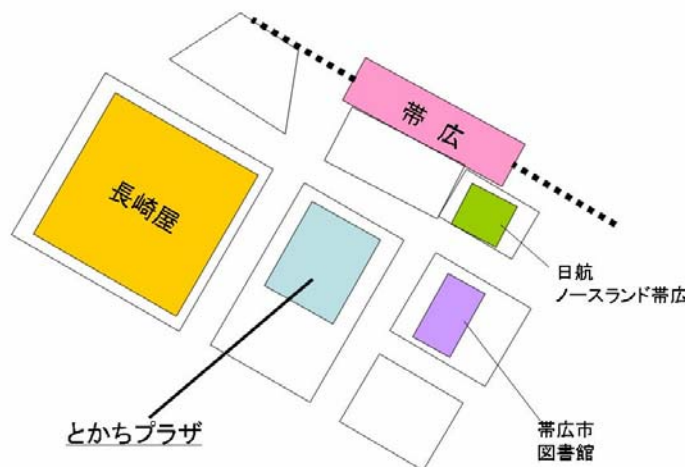
同じくパーソナリティを専門にしても、少しテーマが違えば、あまり議論することなく、過ぎてしまう場合もあります。ある程度同じ立場の人同士で、普段ではなかなかできない議論をおこなえる場をめざしています。

日時

2007年8月24日(大会前日) 15時～18時

場所

とかちプラザ
(JR帯広駅下車徒歩3分)
3階306研修室



参加費

無料（飲み物付き！）

懇親会

終了後には、懇親会(学会から一部補助ありの予定)も企画しております。

参加資格

日本パーソナリティ心理学会会員に限ります。

「若手」であること、なお、「若手」の範囲についてですが、自称で結構です。発表者と同じレベルの目線で議論できることが条件です。

タイムテーブル

15:00～ 開会の言葉

15:10～ 参加者自己紹介

15:30～ 研究発表 1

「児童の挙手に関する研究の再考」澤邊潤

16:00～ 研究発表 2

「制裁としての攻撃に対する幼児の善悪判断」越中康治

16:30～ 休憩

16:45～ 研究発表 3

「賞賛獲得・拒否回避欲求が対人葛藤時の対処行動に及ぼす影響」本田周二

17:15～ 研究発表 4

「化粧行為と仮説的外界の関連の検討」木戸彩恵

17:45～ 移動

18:15～ 懇親会

参加者一覧（予約申し込み）

青林唯	千葉大学大学院自然科学研究科
荒川歩	名古屋大学法学研究科
本田周二 ^a	東洋大学大学院社会学研究科
井上美沙	駒澤大学大学院人文科学研究科
伊藤慎也	日本大学大学院文学研究科
川島大輔	国立精神・神経センター 精神保健研究所
木戸彩恵 ^a	京都大学大学院教育学研究科
古村健太郎	北海道教育大学大学院札幌岩見沢校
越中康治 ^a	広島大学大学院教育学研究科
久保由紀子	立教大学大学院現代心理学研究科
桑村幸恵	愛知学院大学大学院総合政策研究科
大久保智生	香川大学教育学部
佐藤史緒	東洋大学大学院社会学研究科
澤邊潤 ^a	早稲田大学大学院人間科学研究科
鈴木公啓	東洋大学大学院社会学研究科
友野隆成	同志社大学文学部
安田裕子	京都大学大学院教育学研究科

(敬称略, アルファベット順)

注 a : 研究発表者

抄 録

研究発表 1

「児童の挙手に関する研究の再考」

澤邊潤（早稲田大学大学院人間科学研究科）

従来の挙手に関する研究では、挙手の規定要因について、自己効力理論に基づいた解釈がなされてきた。しかし、挙手などの児童の学習行動は、教室内の独立した行動ではなく、教室における連続した教師と児童あるいは、児童間の相互作用という文脈の中で生じるものであると推察される。そのため、挙手を検討する際には、個人内要因だけではなく、環境との関係性にも注目する必要があると考えられる。本発表では、先行研究の追試を踏まえて、教室という環境との関係性から挙手行動の再考を試みる。

研究発表 2

「制裁としての攻撃に対する幼児の善悪判断」

越中康治（広島大学大学院教育学研究科）

被害者を攻撃した加害者に対して「制裁としての攻撃」を加えることの善悪を、幼児はどのように判断するのであろうか。制裁としての攻撃は、加害者に損害を及ぼすという点では悪いと判断される要素を含んでいるが、被害者と加害者との間に公平を回復する（報復的公正をもたらす）という点では良いと判断される要素も含んでいる。本研究では、制裁としての攻撃に対する幼児の善悪判断の発達的变化の検討を通して、その背後にある道徳的な認知・思考の変化を探る。

研究発表 3

「賞賛獲得・拒否回避欲求が対人葛藤時の対処行動に及ぼす影響」

本田周二（東洋大学大学院社会学研究科）

対人行動の背景には、自分を他者から受け入れられる状態にするという承認欲求がある。この承認欲求は、賞賛獲得と拒否回避という二つの異なった目標が想定されており、目標の違いにより対人行動が異なることが明らかとなっている。本発表では、他者からの評価が顕著に現れる出来事と考えられる対人葛藤場面を用い、賞賛獲得欲求と拒否回避欲求が対人葛藤時における対処行動にどのような影響を与えるのかを検討した研究結果について報告する。

研究発表 4

「化粧行為と仮説的外界の関連の検討」

木戸彩恵（京都大学大学院教育学研究科）

現在、化粧に対する女性の意識、特に、化粧をする際に行為者である個人がいかに自己内で「仮定された他者」と対話をしながら化粧という行為を形成しているのか。また、向かう「他者」の宛先が変わる場合、行為自体の変容とそれに伴う心理過程がいかなるものとして経験されるかという2点を軸として、修士論文に取り組んでいる。発表では、実際のインタビュー・データを基に、化粧行為を制約し方向付ける「仮定された他者」の果たす役割についての考察を進めたい。

YPP2007 には、日本パーソナリティ心理学会第 16 回大会準備委員会より多大なご支援をいただきました。心から感謝の意を表します。

2007 年度ヤングサイコロジストプログラム運営委員会

鈴木公啓（東洋大学大学院）

桑村幸恵（愛知学院大学大学院）

青林唯（千葉大学大学院）

荒川歩（名古屋大学）

問い合わせ先 jspp.wk@gmail.com

URL http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspp/shinpo/wk_h19.html